

平成29年1月

# 山下亜矢子 学位論文審査要旨

主 査 尾 崎 米 厚  
副主査 兼 子 幸 一  
同 吉 岡 伸 一

## 主論文

Resilience associated with self-disclosure and relapse risks in patients with alcohol use disorders

(アルコール使用障害患者の自己開示と再燃リスクに関連するレジリエンス)

(著者：山下亜矢子、吉岡伸一)

平成28年 Yonago Acta medica 59巻 279頁～287頁

## 参考論文

1. 女性アルコール依存症患者の回復支援システム構築に向けた課題（第1報）

(著者：山下亜矢子、服部朝代、吉岡伸一、塚原貴子)

平成27年 川崎医療福祉学会誌 25巻 193頁～203頁

# 学 位 論 文 要 旨

Resilience associated with self-disclosure and relapse risks in patients with alcohol use disorders

(アルコール使用障害患者の自己開示と再燃リスクに関連するレジリエンス)

アルコールの有害使用は、バイオ、サイコ、ソーシャルのすべてにダメージを与えることから、世界の健康障害の最大のリスク要因の1つである。アルコールや薬物依存などの物質使用障害の発症や回復への個人差としてレジリエンスという概念が注目されている。レジリエンスは、深刻な危険性にも関わらず適応しようとする現象であり、精神医学において回復の概念として用いられる。レジリエンスの種類には、個人が身に備えている個人因子と様々な環境の中で身に着けていく環境因子があるものの、アルコール使用障害患者の回復に伴うレジリエンスの詳細は明らかになっていない。そこで、本研究では自助グループに参加するアルコール使用障害患者のレジリエンスと自己開示及び再飲酒リスクの関連について調査を実施した。

## 方 法

2015年2月から4月の期間に、鳥取県、島根県、岡山県のアルコール使用障害の自助グループに所属する135名の患者を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、基本属性（年齢、性別、キーパーソン・同居者の有無、就労の有無、アルコール使用障害診断年齢、治療期間、断酒期間、自助グループ参加期間・参加回数、精神科併存疾患の有無、身体疾患の有無）、二次元レジリエンス要因尺度、自己開示の深さを測定する尺度、再飲酒のリスクを評価するAlcohol Relapse Risk Scale (ARRS) を用いて評価を行った。分析は、対象者のレジリエンス得点を資質的及び獲得的レジリエンス要因得点の各中央値にて高群、低群の2群に分け比較検討を行うとともに各尺度間の関連を評価した。

## 結 果

有効回答は48名（有効回答率35.6%）を示した。比較検討した結果、資質的レジリエンス高群において有意に、ARRSの刺激脆弱性 ( $Z=-2.566, P=0.010$ )、感情面の問題 ( $Z=-3.294, P=0.001$ )、アルコールへのポジティブ期待 ( $Z=-2.884, P=0.004$ ) が低く、獲得的レジリエンス ( $Z=3.106, P<0.001$ ) が高く、自己開示のレベル1：趣味 ( $Z=2.560, P=0.010$ )、レ

レベル2：困難な経験（ $Z=2.627$ 、 $P=0.009$ ）が深い結果を示した。獲得的レジリエンス高群では有意に、ARRSの感情面の問題（ $Z=-2.630$ 、 $P=0.009$ ）、アルコールへのポジティブ期待（ $Z=-2.722$ 、 $P=0.006$ ）が低く、資質的レジリエンス（ $Z=3.950$ 、 $P<0.001$ ）が高く、自己開示のレベル1：趣味（ $Z=2.890$ 、 $P=0.004$ ）、レベル2：困難な経験（ $Z=2.906$ 、 $P=0.004$ ）、レベル3：欠点や弱点（ $Z=2.199$ 、 $P=0.028$ ）、レベル4：否定的性格や能力（ $Z=2.378$ 、 $P=0.017$ ）が深い結果を示した。生得的及び獲得的レジリエンス得点とARRS、自己開示の相関関係を検討した結果、生得的及び獲得的レジリエンスが高くなるとARRSは有意に低くなり、自己開示は有意に深まる傾向を示した。生得的および獲得的レジリエンスの高いものの傾向についてロジスティック回帰分析を行った結果、資質的レジリエンス高群に関連する有意な要因は、ARRS[OR (odds ratio) =0.918、95% confidence interval (CI) (0.846-0.997) ;  $P=0.042$ ]と獲得的レジリエンス[OR=1.200、95% CI (1.017-1.415) ;  $P=0.031$ ]を示した。獲得的レジリエンス高群に関連する有意な要因は、資質的レジリエンス[OR=1.289、95% CI (1.095-1.517) ;  $P=0.002$ ]を示した。

## 考 察

レジリエンスが高い患者は再飲酒リスクが低下していることが明らかとなり、アルコール使用障害患者のレジリエンスは、回復により外傷的成長が行われていることが示された。アルコール使用障害患者の回復支援への一手段として、対人関係を構築し、安心できる場で自己開示が深まるよう支援することが、自然回復力の促進に必要となる。自己開示の手段として援助要請はアルコール使用障害への早期介入に重要となることから、早期介入に向けた援助要請スキルを習得する必要性が示唆された。

## 結 論

自助グループに参加するアルコール使用障害患者のうち、レジリエンスが高い患者は再飲酒リスクが低下し、回復過程で獲得的レジリエンスが高まると自己開示が深まっていたことから、アルコール使用障害患者の自己開示及び再飲酒リスクにレジリエンスが関連することが示された。アルコール使用障害患者の自然回復力を促進する有効な手段として、自助グループ参加やピアサポートによる安心できる対人関係の構築と自己開示を深める環境調整の必要性が示唆された。